

=====

CONTENTS

- 卷頭言
- 日本現代中国学会第61回全国学術大会のご案内
- 事務報告
- 地域部会活動報告

=====

【卷頭言】

日本現代中国学会第61回全国学術大会を迎えるにあたって

福家 道信（近畿大学）

今年辛亥革命から百年に当たる。それで幾度かの討議を重ねた結果、共通論題は「辛亥革命から百年を考える」となった。個人的には、何らかの歴史的事件から「〇〇年」というテーマ設定は、多くの学会シンポジウムに常見されるもので、何となく凡庸に思われる一方、辛亥革命を歴史学のテーマとして、正面から取り上げる催しもあるはずなので、今大会でどのように特化できるのか不安を感じないわけでもない。しかし、実際、2011年という数字から即座に連想されるのは百年前の辛亥革命であり、何も歴史事件としての辛亥革命それ自体に焦点を絞るのでなくとも、清朝が終焉を迎えることとなった辛亥革命を念頭に、百年という歴史的時間のスパンでわれわれ中国研究者が各自課題とするところを検討するのは、それなりに意味があるだろうと考えた。幸い、共通論題への参加をお願いした諸先生からは快諾を得、また、分科会、自由論題の応募も多数揃い、さらに、学会長老の先生方に御話を伺うシンポジウムも実現可能となって、プログラム作成が完了した。

いまさら言うまでもなく、中国の経済発展とそれに伴う中国社会各方面の変化はこの一年を取り上げて非常に大きく、それらの情報と分析は最新の年鑑に収められている。確かに、耳目を刷新する出来事は次々に生じているし、年来指摘され続けてきた発展の影の側面に属するような事象もないわけではない。上海国際博覧会は来場者が史上最高の7400万人を超えた。GDPで中国は日本を追い抜きアメリカに次ぐ世界第2位となった。だが、その一方で尖閣列島問題が起き、今年になって高速鉄道事故が報道された。アメリカ国債が格下げされ、米ドルの信用が落ち、未曾有の円高が続く今、否が応でも世界の視線は中国経済の動向に集まる。

いずれにせよ、個別的な事件や情報に接し、また実体験することを通して、われわれは中国のイメージを喚起し、確認し、修正し、更新する。このことは日本人が中国について行うばかりでなく、国外の人々においてもそうであり、中国国内外に暮らす中国人自身が行うことでもある。インターネットのツイッターや facebook で瞬時に遠隔地の情報に接することが可能となった今日では、従前にもまして強くそう感じられる。中国は変化し、情報を受容する人間の中で中国像はさまざまなレベルで変化する。それにしても、これが中国、中国人だという中核となるイメージはあるはずである。

中国像ということで過去を振り返れば、辛亥の年まで行かずとも、日中戦争敗戦直後において、また、中華人民共和国建国当時において、さらに「文革」当時、或いは日中国交回復当時においても、わが国の中国研究者は時代と社会状況の中で必要に応じて、それぞれの研究と言説において中国像を追い求めた。それらはその時々において言説者の挑戦であった。しかし、現在われわれが直面している中国は、20 世紀のどの時期とも異なり、社会の諸側面で様々な変化を示しつつ、グローバルな規模で自己実現を達成しようとしているかに見える。ただしここで言う自己とは、中国の歴史の長さを考えた場合、たやすく輪郭が見えるというものではなさそうだ。それだけに、アニュアルなスタンスを一度離れ、時間のスパンを大きくとり、百年のスケールで個別研究を見直す意味があろう。ここで先日、恩師から教えていただいた言葉をずばり繰り返そう。21 世紀は、中国像が大きく転換する世紀となるでしょう。どのような中国像を提示するか、それは新たなチャレンジです、と。多くの方々が今大会に参加され、実りの多い、充実した討議をされるよう準備に専念したい。

【日本現代中国学会第 61 回全国学術大会のご案内】

日本現代中国学会第 61 回全国学術大会のご案内

会員各位

拝啓、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、近畿大学において今年度の全国学術大会を開催することになりました。今年には辛亥革命百周年の年に相当します。この百年の中国の変動は実に大きく、まさに激動期とよぶべきものでした。今年こそは辛亥革命を念頭に、私たち中国研究者が各自課題としてきたものを今一度、百年という大きな歴史的スパンの中で見直すべき年ではないでしょうか。

そこで、10 月 22 日（土）午後には「辛亥革命から百年を考える」を共通論題とし、歴史、経済、法律、文学各分野からの報告と討論を行います。また、同日午前には草創期以

降の「日本現代中国学会 60 年を振り返る」記念シンポジウムを用意しました。翌 23 日(日)には、廖承志の対日「工作」システム、農林業における中露経済をめぐる 2 つの分科会を開催し、文学(1・2)、政治・経済、歴史、思想・社会・文化に関する自由論題報告を 5 会場で行います。なお、『現代中国学会報』(『現代中国』の前身)創刊号を始めとする「日本現代中国学会 60 周年記念展示」を行います。

近畿大学東大阪キャンパスは、大阪平野の東部に位置し、東に生駒山系を望み、難波など大阪中心部からもさほど遠くない場所にあります。また、懇親会では近大水産試験場より鮮魚の提供を準備しています。

大会実行委員会一同、みなさまの積極的なご参加を得て、充実した討論と懇談の機会となりますことを心から願っています。

記

[日時] 2011 年 10 月 22 日(土)、23 日(日)

[会場] 近畿大学東大阪キャンパス

[交通] 近鉄大阪線「長瀬」駅下車、近鉄奈良線「八戸ノ里」駅下車

詳細はプログラム末尾の交通案内をご覧ください。

[大会参加費] 1000 円

大会実行委員会

委員長：福家道信

委員：上田貴子、好並晶、大東和重、中野徹

事務局 570-0813

大阪府東大阪市新上小坂 2883

近畿大学文芸学部 E キャンパス A 館 福家研究室付

genchu2011kindai@gmail.com

※大会の詳細につきましては、別送のプログラムおよび学会ホームページをご覧ください

<http://www.genchugakkai.com/20110923.pdf>

※本年度は大会前日の夜に全国理事会(2010-2012 年度)を開催します。理事の方はご参加お願い致します。

[日時] 2011 年 10 月 21 日(金) 19:00~21:00

[場所] 常翔学園摂南大学 大阪センター3階 会議室

【事務報告】

■2010-12 日本現代中国学会第二回常任理事会

日時：2011年7月17日（日）14：00～18：00

場所：高槻総合市民交流センター

出席：瀬戸宏、高見澤磨、辻美代、日野みどり、通山昭治、巖善平、北川秀樹、福家道信、
大西広（敬称略）

欠席：趙宏偉、大澤武司、王雪萍（敬称略）

冒頭に瀬戸理事長より挨拶があった。

●報告事項（2月-7月）

1. 経過報告（事務局）

- 1) 2月18日に全国大会がアジア政経学会と同日開催とならないよう、今後、両学会で事前に日程調整を行いたい旨を理事長名でアジア政経学会に申し入れを行った。
- 2) 3月11日に発生した東北大震災に対し、東北在住会員に安否確認メールを出した。また、4月11日にはHP上に常任理事会名でお見舞い声明を掲載した。
- 3) 4月に平成23年度科学研究費補助金90万円の支給が決定した。ただし、今年度は決定金額の70%が先ず交付され、残りの30%については10月以降（この場合、会計年度がまたがる）になる可能性がある（交付されない可能性もある）。
- 4) 『資料・日本現代中国学会の60年』が4月11日に刊行され、各会員に発送された。

2. 会計報告（北川会計担当理事）

2011年7月12日現在、個人会員725名と団体会員4名で会員総数729名である。会費納入状況としては、73.8%が未納なく納入されている。また、住所不明者16名については、各部会を通じて追跡調査を行うことを確認した。

今年度全国大会準備金35万円の受け渡しについては、後日、北川理事と福家理事との間で行うことを確認した。

3. 編集委員会報告（巖編集委員長）

『現代中国』85号の編集について、論文2本、研究ノート3本は7月1日に入稿済み。また、書評についても7月6日に入稿。共通論題論稿については、3本が入稿済みで、残り1本についても7月末に入稿予定。

また、編集委員の投稿については、投稿しないことが望ましいことを確認した。

4. 広報（ニューズレター、HP）委員会報告（辻広報委員長）

ニューズレター担当大澤幹事、またホームページ担当王幹事に代わり辻広報委員長から、報告があった。ニューズレター33号は5月24日に発行し、現在次号34号の編集が進んでいる。ホームページに関しては、国立情報研究所サーバーサービスが停止したため、学会ホームページを商業用サーバー（株式会社エヌエヌシー）に移行し、移行作業は順調に終了した。また、前回常任理事会後、12回にわたりHPの更新を行った。

5. 各地域部会報告

1) 関東部会（趙宏偉関東部会代表に代わり高見澤副理事長）

2012年度全国大会（10月20・21日）一橋大学での開催に向けて、実行委員会委員長を坂本ひろ子会員が担当し、必要に応じて大会企画委員会を設置（委員長は趙宏偉関東部会代表が務める）するとの説明があった。2016年度については、加茂会員を中心に慶應大学湘南キャンパスでの開催を予定している旨の報告があった。

また、5月7日に法政大学市谷キャンパスで修士論文報告会を開催し約30名の参加があった。同日行われた理事会で2名の新規会員を承認した旨の報告があった。

2) 関西部会（日野みどり関西部会代表）

6月4日に関西部会大会を開催し、80名の参加者があった。同日行われた理事会で5名の新規会員（内1名は再入会）を承認した旨の報告があった。また、全国大会プログラム委員会を3月5日および4月9日に開催した旨も報告された。

3) 西日本部会（通山昭治西日本部会代表）

5月4日に西日本部会春季総会を開催し、31名の参加があった。また、9月には代表を通山代表から新谷秀明代表に交代する旨の報告があった。

6. その他

特になし。

●審議事項

1. 2011年度全国大会（近畿大学10月22日・23日）について

福家実行委員長より、共通論題報告者およびデスクサントが確定した旨の報告があった。また、16日締め切りで2分科会、21自由論題（重複申請1名）の応募があり、今後プログラム委員会で詳細を決定する旨が確認された。

瀬戸理事長より、現中學會創立60周年記念行事として、①記念シンポジウム、②創立60周年記念展示の提案があった。記念シンポジウムは全体会とし、学会顧問を中心としたパネラーで60年の歴史を回顧し、将来の展望を示す。司会は瀬戸理事長が務め、パネラーなどへの交渉は瀬戸理事長が行う。シンポジウムの開催を10月22日（土）とするため、全国理事会を学会前日の夜（10月21日）とする。

また、記念展示は瀬戸理事長を中心に開催校の応援を得ながら考える。『現代中国』バックナンバーの展示やパネルを作成して展示する。

2. 2012年度全国大会について

2012年10月20・21日に一橋大学で開催されることが確認された。事務局長より開催日程について、申し入れによりアジア政経学会に通知する。

なお、2013年度全国大会開催校については、関西を中心に調整することが確認された。

3. 新地域部会設立について

三好章会員より東海部会（仮称）設立に関し、該当地域会員に対してアンケートを実施し、集計・分析し、部会設立に関する最終決定を行いたい旨のメールがあったことが紹介された。今後、スケジュールに基づき三好会員を中心にアンケートが行われ、最終決定が下させるのを待つことを確認した。部会設立を決定した場合（スケジュールでは2012年3月）、次期（2012-14年）理事会体制には間に合わないが（2011年度全国理事会・総会で東海部会設立についての承認が必要なため）、理事の定数を関東部会現行の30を25とし、関西部会を同じく15を20と増員することが2011年度全国理事会・総会で審議を経て承認された場合には、東海部会成立の場合、全国理事会・総会の承認を待たず、関西部会内で理事の配分を調整することとする。

4. 理事地域部会配分数見直しについて

3.にあるように関東部会理事の定数を現行の30を25とし、関西部会を同じく15を20と増員することとする。

5. 理事長選内規について

組織検討委員会の答申に基づき審議を行い、組織検討委員会に規約改正案の作成を依頼した。

6. 会費の値上げについて

1995年より5000円の年会費は変わっていない。現状のまま推移すると、繰越金が底をつき、支出不能になる可能性がある。院生会費を据え置き、有職者会費を7000円に値上げすることも考えられるが、今年度は科学研究費補助金90万円（70%に減額の可能性）を獲得しており、今後も申請を継続することで補助金獲得の可能性はある。来年度の会費値上げは行わないことを確認した。

7. 人事—顧問その他について

現在、顧問任用規程はなく、組織検討委員会に諮問することを確認した。

8. その他

1) 2013年・2014年度全国大会開催予定校について

2013年度は関西部会で開催校を調整することを確認した。また、2014年度については神奈川大学での開催を承認した。

2) 関西部会大会報告者報告棄権について

日野関西部会代表より、関西部会大会自由論題報告者辞退について報告があった。辞退者への対応について審議し、関西部会として嚴重注意を行うこととした。また、今後の対応としては、全国大会同様に報告希望者には指導教官またはそれに準ずる会員からの推薦状を求めることとする。

3) 新入会員の承認

関東部会 11名、関西部会 5名の新入会員を承認した。

以上

【地域部会活動報告】

■ 関西部会

2011年度関西部会大会を開催しました。

[日時] 2011年6月4日(土) 13:00～

[場所] 摂南大学大阪センター(学校法人常翔学園大阪センター)

[プログラム]

● 自由論題報告 9:30~13:30 (報告30分、コメント・討論15分)

【環境・自然分科会】

司会：林宰司(滋賀県立大学)

第一報告：何彦旻(京都大学・院)「中国における環境関連税制の現状と課題」

第二報告：金紅実(龍谷大学)「中国生態保全政策の発展と動向分析」

司会：相川泰(鳥取環境大学)

第三報告：寇鑫(龍谷大学・院)「太湖流域の水問題及び流域管理」

第四報告：櫻井次郎(名古屋大学)「被害者救済から見た中国の環境ガバナンス」

【歴史・文学分科会】

司会：内田尚孝(同志社大学)

第一報告：横山政子(神戸大学・非)

「大躍進期農村を語る文字資料と口述資料

—公共食堂・託児所の実施状況に関する黒竜江省の事例から—

第二報告：小都晶子(国際日本文化研究センター)「満州国立開拓研究所の調査と研究」

司会：松浦恒雄（大阪市立大学）

第三報告：王娟（神戸大学・院）「清水安三と崇貞学園をめぐる人的なネットワーク
—新聞『支那之友』を手がかりに—」

第四報告：鳥谷まゆみ（立命館大学）「白馬湖作家群の小品文
—1920年代における小品文概念の形成から—」

【産業・経済分科会】

司会：鄭雅英（立命館大学）

第一報告：楊常宝（国立民族学博物館）「食糧生産における「後背地」に関する一考察
—中国内モンゴル農村地域を事例に—」

第二報告：馬場毅（愛知大学）「寧夏回族自治区における節水型農業、農村建設」

司会：中岡美雪（北九州市立大学）

第三報告：北波道子（関西大学）「南アフリカの中国商城について
—2010年調査の報告を中心に—」

【政治・社会分科会】

司会：西村成雄（放送大学）

第一報告：若松大祐（京都大学・研修員）「蔣経国の説く『我々の歴史』
—総統告辞を読む」

第二報告：久野輝夫（中京学院大学）「中国における「性的労働者」の問題について」

●共通論題 13:40~17:40 「安全・安心・安定—現代中国の課題群2011—」

Security, Safety, Stability: China's Problems to Be Solved, 2011

座長：辻美代（流通科学大学）

13:40~13:50 趣旨説明 辻美代（流通科学大学）

13:50~14:10 【政治領域】加藤千洋（同志社大学）

14:10~14:30 【環境領域】北川秀樹（龍谷大学）

14:30~14:50 【食の安全・安心】三好恵真子（大阪大学）

14:50~15:10 【生活領域】日野みどり（同志社大学）

15:10~15:20 休憩

15:20~15:40 総合コメント 佐々木信彰（関西大学）

15:40~16:10 フロアーからの意見および質疑

16:10~17:10 パネリストからの応答（各パネリスト15分間）

17:10~17:40 フロアーとの討論およびまとめ

●懇親会 18:00~20:00

■西日本部会

2011 年度春季研究集会を開催しました

[日時] 2011 年 5 月 28 日 (土) 13:00~18:00

[場所] 福岡大学 (七隈キャンパス) 文系センター棟 15 階第 6 会議室

[プログラム] 日本現代中国学会ニュースレター第 33 号に掲載

=====

日本現代中国学会事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22

大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局

TEL: 03-5307-1175 FAX: 03-5307-1196

genchu@univcoop.or.jp

郵便振替: 東京 00190-6-155984

広報委員長: 辻美代 (流通科学大学)

ニュースレター編集: 大澤武司 (熊本学園大学)

日本現代中国学会 HP: <http://www.genchugakkai.com>

=====